

犬の胆嚢腫瘍 4 例の病理学的特徴

二瓶和美¹⁾、鄭 明奈¹⁾、小野澤花純²⁾、柿沼陽子²⁾、山崎寛文¹⁾、内田和幸³⁾、小野憲一郎¹⁾

1) 日本動物高度医療センター、2) サンリツセルコバ検査センター、3) 東京大学獣医病理学研究室

【はじめに】犬の胆嚢腫瘍の発生は稀であり、過去に海外で神経内分泌腫瘍 (NET) に関する報告が 3 報、国内でリンパ腫に関する報告が 1 報あるのみである。胆嚢粘膜上皮に由来する腫瘍に関する情報はなく、極めて稀な病態と考えられる。本研究では、国内における犬の胆嚢原発腫瘍の発生動向を調査し、これらの病理学的特徴を検討した。

【症例と方法】過去 5 年間の病理診断データベースから胆嚢病変を抽出して病変別に発生状況を調査した。さらに胆嚢原発腫瘍と診断した症例については、病理組織学および免疫組織学的に追加検索を実施した。

【結果】過去 5 年間に胆嚢を病理組織診断した 560 例のうち原発腫瘍は 4 例のみで、NET 3 例、胆嚢腺腫 1 例であった。肉眼的には、NET の 3 例ともに腫瘤表面は比較的平滑であったのに対し、腺腫ではカリフラワー状の腫瘤が粘膜に突出して形成されていた。組織学的に、NET では粘膜内で類円形の腫瘍細胞が包巣状に増殖していた。核分裂像は平均 ≤ 1 個/HPF であった。胆嚢腺腫は胆嚢内腔に突出する腫瘤を形成し、腫瘍細胞は少量の血管間質を伴い乳頭状に増殖していた。異型性や浸潤性は乏しく、核分裂像も認められなかった。免疫組織学的に NET は、Chromogranin A 陽性、Cytokeratin (AE1/AE3) 陰性であり、腺腫は Chromogranin A 陰性、Cytokeratin(AE1/AE3)陽性であった。

【考察】動物の WHO 腫瘍分類では胆嚢原発腫瘍として、腺腫、腺癌、平滑筋腫が分類されているが、今回の調査では、4 例中 3 例が NET であった。過去の報告例も考慮すると、イヌの胆嚢原発腫瘍としては NET が最も一般的であり、腺腫等の粘膜上皮に由来する腫瘍は稀と思われる。今回検索した 4 例は粘液嚢腫や胆嚢炎を併発しており、その関連性については今後検討したい。